



# まちづくりは、みんなの「困った」から始まる

インタビュー NPO法人エム・トゥ・エム 代表 服部悦子

## まちづくりのつなぎ役

**編集部** NPO法人エム・トゥ・エムは、住民主体のまちづくりをさまざまな手法で展開しています。まずは活動のきっかけをご紹介ください。

**服部** 私たちは、まちづくりのつなぎ役になりたいと思っています。まちのことを考えて決めるのは、行政でも一企業、一団体でもない。そういう組織の外に「協同の場」をつくって、いろいろな立場の人たちが相談して決められればいいなど。エム・トゥ・エムのエムは、「みんな」とか「マインド」のM。まちづくりには、みんなのマインドをつなぐ役割が必要で、そんな活動がしたいと思います。

**編集部** 具体的な活動の事例について教えてください。

「協同の場」をつくり、いろいろな立場の人たちが相談して決められればいいなど。エム・トゥ・エムのエムは、「みんな」とか「マインド」のM。まちづくりには、みんなのマインドをつなぐ役割が必要で、そんな活動がしたいと思います。

**服部** 逆から読むと、「なんとかなるさ」(笑)。高齢者福祉に限らず、困りごとを抱えた人たちが、ここに来れば何とかなるという場所をめざします。スタートしたばかりで運営面の課題も多いですが、いずれはこのプロジェクトの中に、訪問看護事業所もできるといいですね。

「協同の場」をつくり、いろいろな立場の人たちが相談して決められればいいなど。エム・トゥ・エムのエムは、「みんな」とか「マインド」のM。まちづくりには、みんなのマインドをつなぐ役割が必要で、そんな活動がしたいと思います。

**服部** それを考えていたとき、私たちの当時の活動を見学した南医療生協のみなさんが、口々に「何かあつたらいてください」とおっしゃってくれたことを思い出しました。思い切って「外国人の健康チェックをやりたい」とお願いすると、「ぜひお手伝いしますよ」と理事会で決定をもらつて、それで実施することができたんですよ。

「協同の場」をつくり、いろいろな立場の人たちが相談して決められればいいなど。エム・トゥ・エムのエムは、「みんな」とか「マインド」のM。まちづくりには、みんなのマインドをつなぐ役割が必要で、そんな活動がしたいと思います。

**服部** 昨年10月から、いくつかの人と「さるなかとんな協議体」を結成する相談を始めました。建設から40年以上たつて住民の高齢化がすすむ大型団地に、ほかの団体とも協同して、福祉の拠点を作るプロジェクトです。シャッターが閉まっていた団地の商店街を借りて、私たちは、「さるなかとんなtoto」という地域の人たちが集まって、食事もできるスペースを運営しています。

「協同の場」をつくり、いろいろな立場の人たちが相談して決められればいいなど。エム・トゥ・エムのエムは、「みんな」とか「マインド」のM。まちづくりには、みんなのマインドをつなぐ役割が必要で、そんな活動がしたいと思います。

瀬戸市には4千人の外国人がいて、心配なのはやっぱり健康のこと。病院に行つても、問診票を読めない人もいますから。それに、住民のみなさんは、もっと外国人とコミュニケーションを取りたいという声もありました。例えば災害時には、支え合わないはどうしようもないから、外国人の人たちには地域に出てきてもらいたいんですね。

「協同の場」をつくり、いろいろな立場の人たちが相談して決められればいいなど。エム・トゥ・エムのエムは、「みんな」とか「マインド」のM。まちづくりには、みんなのマインドをつなぐ役割が必要で、そんな活動がしたいと思います。

**服部** 住民の思いを活動に

**編集部** さるなかとんなは居場所づくりといえる活動ですが、エム・トゥ・エムには外に飛び出した活動も多いですね。

**服部** そうです。通訳は、名古屋大学に留学している外国人学生のみなさんが協力してくれます。ほかにも、小学校や市の職員、消防署、医大の先生、購買生協のコーピーあいちなど、いろいろな方が協同しています。

**服部** 外国人の健康チェックを8年間続けていて、今年も10月に小学校

**編集部** もうひとつユニークな活動が、児童遊園の指定管理\*です。

\*指定管理：地方自治体が所管する公の施設の管理、運営を民間事業者やNPO団体などに委託する制度

## 外国人の健康チェック

外国人の健康チェックは、昨年から外国人に限らず、誰でも受けられるように。「自分の母国語でお医者さんに相談できると、こんなにも安心なんだね」と涙を流して喜んでくれた中国人のおばあちゃんもいたそうです。



## さるなかとんなプロジェクト

団地の商店街空き店舗に、エム・トウ・エムのほか、デイケアなどを展開するNPO法人瀬戸地域福祉を考える会まごころ、障害者就労支援のNPO法人よつ葉が運営するパン屋が出店。福祉のまちづくりを目指しています。



### 服部

「ねむの森」というキャンプ場

です。きれいな小川があって、希少な動植物も生息している場所ですが、それまでの管理者の運営では、木の手入れなどもされず荒れ果てていきました。「何とかしたい」と地域住民から声が上がって、エム・トウ・エムが指定管理者になつたんです。

日常の管理は、住民のみなさんが交代でやっています。私たちの役割は、保険に入つておくことと市との交渉。それから、何かあつたときに「ごめんなさい」と謝ること(笑)。4月にスタートして、ずいぶんきれいになつたと地域の方には評価されています。

### 編集部

自分のまちを良くしようとする住民がいて、その活動がしやすくなるようにしているのがエム・トウ・エム。まちづくりの主体は、住民が担つていると。

**服部** そうです。児童遊園の指定管理になぜ手を挙げたかというと、その場所は地域の財産です。より良く、住民のためになるように管理したほうがいい。そのためには、私たち住民が責任を背負わないといけないと考えたからです。

もともと私たちは、「やってもらう人」じゃなかつたはずなんです。地域のことは、自分たちのこと。それが分業化されて、行政や業者に「あ

れも頼む」「これも頼む」になつてしまつた。だけど、自分のまちを愛する

住民が地域に責任を背負つてかかわることで、いろいろな気付きがある。そこから、「考える市民」になつていくのだと思います。

## 住民が主体的にかかわるには

### 服部

困つている人が、「困った」といえなくなつていてことでしょう。個人にしても、組織にしても。

個人についていえば、困つているのに、どこに相談していいのか分からなるのが一番不安なことだと思います。

一人暮らしの人が、「困った」といえず、孤立しているでしよう。同じ町内に何人も。町内の誰かが、家の壁を取つ払えば、それは解消するじゃないですか。気持ちの壁を取つ払うということで、本当の壁じゃないですよ(笑)

### 服部

そうじやなくて、「私たちの市や組織は今、こんな状況です。ここに困っています。どうしましよう」とい

うところから始めてほしいなと。いろいろな職種、いろいろな考え方を集め、「困った。どうしよう」って正直に話してくれればいいと思う。

そうすれば住民も自分ごとになつて、同じほうを向くことができます。そこで初めて「だつたらこうすればいい」「私はこうしよう」と知恵が生まれる。それこそが住民の力です。主体的にかかわることで、モチベーションも上がりりますから。みんなで、「困ったなあ」というところから始められればいいですね。

といえなくなつてているように思いました。特に行政職員は立場上、市民に向かって「困った」とはいいにくいですね。それでも、「困った」というところから始めてほしい」と、私は協同の場で行政の方たちに伝えていました。

行政もほかの団体も、自分たちの中で「きっと住民はここに困つているだろう」と考えて、「解決するためにはこうしよう」と勝手に決めて、「このボランティアを募集します」とやってしまう。そうすると、住民は最初から受け身じゃないですか。